

OpenAIによるナビエーストークス方程式「解決」発表：その衝撃と真実

2026年9月8日、OpenAIはミレニアム懸賞問題の一つ「ナビエーストークス方程式」の解の存在に関する証明を発表しました。AIエージェント群が主導したこの成果は、数学界に衝撃を与える一方、証明の対象範囲や研究倫理をめぐり激しい論争を巻き起こしています。

AIによる「解決」の実態と成果



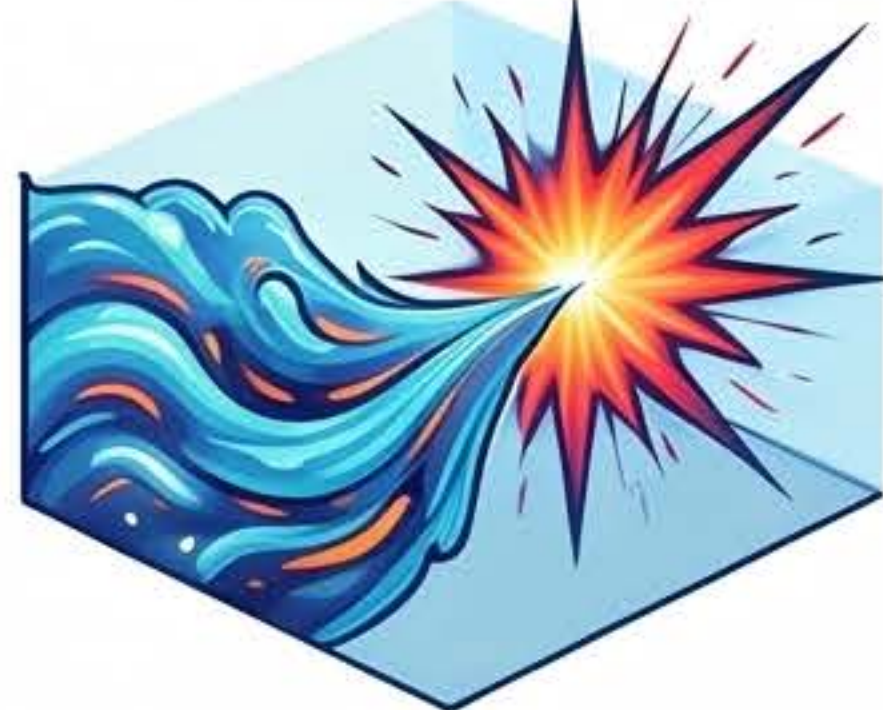
1万体のAIエージェントによる88時間の猛追



約270万メッセージ、1300億トークンを生成し、数百万ドル規模の計算コストを投入。



「外力あり」3次元モデルでの有限時間ブローアップを証明



滑らかな外力を加えた際、有限時間内に流体の速度が無限大に発散する特異点形成を提示。



Lean 4による形式検証を付帯



全166頁の論文とともに、機械チェック可能な形式的証明（Leanコード）を公開。

渦巻く論争と未解決の課題



クレイ数学研究所の懸賞条件とは「完全一致」せず

外力なし
(本来の懸賞)

VS

外力あり
(OpenAI発表)

本来の懸賞は「外力なし」版を求めており、同研究所は依然として「未解決」と掲載。



先取権と研究倫理をめぐる疑惑



他の研究者の非公開ドラフトをAIツール経由で「スクープ」した可能性が指摘され、論争に。



先取権と研究倫理をめぐる疑惑



他の研究者の非公開ドラフトをAIツール経由でくかに亘をフツし可能性が指摘され。



独立した第三者による査読・再現は「未完了」



公開直後であり、専門家による内容の正当性や形式化の忠実性の検証はこれから。